

## 人権教育に関する特色ある実践事例

### 基準の観点

協力的・参加的・体験的な学習を効果的に進めている実践事例

### 1. 基本情報

#### ○都道府県名及び市町村名

長崎県五島市

#### ○学校名

五島市立福江中学校

#### ○学校のURL

<http://www.k-int.jp/~fukue-jhs/>

### 2. 学校紹介

#### ○学級数

【通常学級】 1年生5学級、2年生4学級、3年生5学級、特別支援学級2学級  
【合計】 16学級

#### ○児童生徒数

【全生徒数】 502人（平成25年11月19日現在）  
（内訳：1年生151人、2年生156人、3年生195人）

#### ○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

##### 【学校教育目標】

「強く 正しく 役立つ 魁(さきがけ)人(びと)の育成」

自ら鍛える(体) 豊かな心を持つ(徳) 求めて学ぶ(知)

##### 【今年度の基本方針】

校訓「強く正しく役立つ人間」の役立つ人間の育成に焦点化を図り、教師も生徒も世のため人のために役立つ活動をとおして「豊かな心を持つ生徒」「豊かな心を持つ教師」を目指す。

#### ○人権教育にかかる取組の全体概要

教師自らが人権意識を高め、教育活動の場における差別や偏見を見抜き、人間尊重の基盤に立った平和教育・人権教育への意欲と実践力を高める。

(1) すべての生徒を「差別を見抜き、差別をしない、許さない」人間として育てる。(2) 基礎学力を保障する。(3) 差別の不合理性を知り、差別や偏見のない公正・公平な生活習慣、態度を育てる。(4) 自他の生命を尊重し、たくましい心身の保持増進に努める。(5) 「戦争は最大の人権侵害である。」という視点から、戦争に対する科学的認識を高め、平和を願う心情を育てる。(6) 進路の問題を明確にとらえ、切り拓いていく力を育てる。(7) 働くことの尊さを知り、職業に対する正しい見方を育てる。

### 3. 特色ある実践事例の内容

#### ◆社会貢献体験活動等を通して育てる「強く正しく役立つ魁人」

##### ・取組のねらい

生徒が「ボランティア活動」及び「さわやか運動」に取り組み、感謝される喜びや共に活動する喜び、地域住民や来島者が幸せになる喜び等を感じる体験を通して、ふるさとや母校を愛する心、仲間を大事に思う心、さらには自尊感情を育成し、問題行動の未然防止に資する。(第2回校内研修より)

##### ・取組を始めたきっかけ

「道徳的な知的理解はできているが、道徳的実践が不十分である」という前年度の学校評価に基づき、「道徳的実践力」を求めて、人のため、特に地域に役立つ活動を通して「豊かな心(思いやりの心)を持つ生徒」「人のために役立つ生徒」の育成を目指した。

##### ・取組の内容

###### (1) 魁(さきがけ)の誓いの策定

現在、本校には人権宣言や平和宣言、生徒主体の専門委員会による各種宣言や目標等があるが、それらを一つにまとめ、生徒自身が目指す姿をより明確にした魁(さきがけ)の誓いを策定する。生徒自身が人権集会や平和集会等で宣言することにより、自覚を促し、日頃の行動を振り返る指針とする。

###### (2) ワンストップあいさつの励行

前年度、生活委員会が自ら生徒に呼びかけ、校内で取り組んでいた「立ち止まってのあいさつ」を校内だけに限らず、校外でも広げていこうという活動。

生徒会長や生活委員長の声かけをはじめ、職員も生徒や同僚に、しっかり止まってあいさつをするようにしている。また、朝は生徒を出迎えるという意識を持ち、職員は早めに出勤し、学校周辺、校門付近、生徒用玄関、教室など様々なところで生徒を待ち受けて、ワンストップあいさつを行っている。

###### (3) 長崎がんばらんば国体にむけたボランティア活動

平成26年度、本市で開催される「長崎がんばらんば国体」を社会貢献体験活動の絶好の機会ととらえ、本年度(平成25年度)から開催される様々なプレ国体大会において、来島する選手団、応援団の方々をおもてなしする活動を行う。これまでに、出迎えのためのプランター(花)作りやのぼりの作成及び設置、市内清掃や会場周辺の清掃等に取り組んだ。

###### (4) 校内でのぎばっと隊活動

国体に向けたボランティア組織「ぎばっと隊」であったが、普段の校内でも活動できないかと生徒自らが始めた清掃活動。早朝7時半から15分間ぎばっと隊隊長の声かけのもと、自主的に学校敷地内外の清掃に取り組んでいる。

###### (5) 見つめる清掃活動

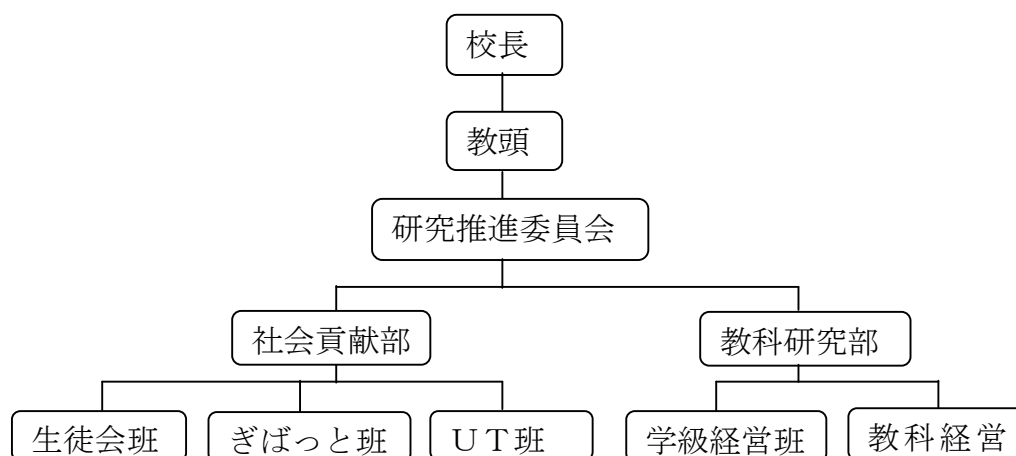
毎日の清掃活動を「見つめる清掃」とし取り組んでいる。見つめる清掃とは、汚れや乱れを見つめることで課題点や問題点に気付く力を、自分を振り返ることで

反省する力や粘り強く続ける力を、仲間を見つめることで協力し助け合う力を、清掃による変化を見つけることで活動の良さや自分や仲間を肯定する力を身につけることを目的として取り組む清掃のことである。

#### ・取組の主体や実施体制

取組に当たっては、教職員を社会貢献部と教育研究部に分け、さらに、社会貢献部では、①生徒会班、②ぎばっと班、③UT班の3つに、教育研究部は、①学級経営班、②教科経営班に分かれて取組を進めている。生徒会班では、日々の生活において専門委員会が取り組む活動を総括し、ぎばっと班やUT班と協力しながら活動している。ぎばっと班では、当初は長崎がんばらんば国体向けのボランティア活動の予定であったが、夏休み終了後から学校内でも何か活躍の場はないかと考え、今の校内清掃活動へとつながっている。これまでも土曜や日曜、あるいは夏季休業日や放課後などに自主参加で花の苗の移植やプランターの世話などを行ってきた。UT班は、総合的な学習の時間（本校では、総合的な学習の時間を「Useful Time」とよんでいるため、その頭文字をとったもの）を使った取組の企画・調整・実施を行っている。

一方、これらの活動を支えるために、教育研究部を、①学級経営班と②教科経営班にわけている。社会貢献的活動や毎日の生活の中で、一人一人の自己肯定感を高めるためにはどのような取組が効果的かを、(①学級経営班で道徳の在り方や短学活のメニューなど、②教科経営班では、どの教科でも取り組める共通実践事項) 検討している。



#### ・取組の頻度

##### (1) 魁（さきがけ）の誓い

平和集会や人権集会などの全体や学年の集会時に、代表者ととともに斉唱し、各自の行動を振り返る。

##### (2) ワンストップあいさつ運動

毎日、常時実施している。学校内のみならず、登下校時や休日等でも地域であいさつを心がける。

##### (3) 長崎がんばらんば国体に向けたボランティア活動

主に大会（今年はプレ大会が3度実施された。）の3か月前からプランターに花の苗を移植し、育てた。また、同時期に歓迎ののぼりを作成した。2週間前には市内の清掃活動を行うと同時に会場や福江港にプランター（花）及び歓迎ののぼりを設置した。

#### (4) ぎばっと隊活動

毎朝、朝7時半から15分程度、生徒有志によって実施されている。統括するのは、各学年のぎばっと隊隊長（生徒の代表）。日によって参加人数も、メンバーも異なるが必ず誰かが参加して取組を進めている。

#### (5) 見つめる清掃活動

基本的に毎日。清掃がなかった翌日は、朝と夕方の2回実施。夕方の清掃は、必ず黙想から始め、無言で活動し、終了後、全員の反省と職員からの講評を行っている。職員も生徒とともに無言で清掃をしている。

### **4. 実践事例の実績、実施による効果**

- ・実績とよべるほどのものはまだないが、毎月行っている生活アンケートの中の自己評価でも「ワンストップあいさつがしっかりできている」、「2分前行動の徹底ができた」、「学校生活が楽しい」といった質問に好評価を示す生徒が増えている。特に学校がすごく楽しいと答えた生徒が、1年生で41%、2年生で35%、3年生で31%と良い評価になっている。（「楽しい」を含めると94%、92%、90%）

### **5. 実践事例についての評価**

- ・自己評価が高かった理由は、取組を進める中で、お互いを認め、感謝したりする場面が増え、自尊感情の高まりとともに学校での居場所ができたからではないかと思われる。また、取組や日頃の活動を仲間と一緒にやり遂げた達成感や充実感を味わい、仲間と一緒にいるいごちのよさを感じたことが「学校が楽しい」という評価につながったのも要因の一つだと考えている。
- ・ワンストップあいさつについては、保護者からも良くなったという声が多く聞かれるようになってきた。地域に住む老夫婦がわざわざ朝から登校指導をしている教師のもとにやってきて「最近、中学生のあいさつが非常に良くなって、気持ちがいいです。」という言葉を送っていた。
- ・残念ながら、学校が楽しくないという生徒が、若干名いる。この生徒たちが学校を楽しみと思えるようにするためにどのようにアプローチしていくかが大きな課題である。仲間とともに人のために役立つ活動をすることで充実感や自尊感情を高め、学校が楽しい場所であると感得させられるよう、全職員で協力して努力していきたい。

## 【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

### 五島市立福江中学校

社会貢献活動を通して人権意識を育てようとした取組である。

「教師自らが人権意識を高めつつ人権教育を推進する」との方針の下、教職員を「社会貢献部」と「教育研究部」に分けた実施体制を構築し、「道徳的実践」が不十分との前年度の学校評価を念頭に、「ボランティア活動」等の具体的な道徳的活動を実践している。

平成26年度に五島市で開催される国体を好機ととらえ、プレ国体において市内、会場周辺の清掃、選手団等への「おもてなし活動」を実施したところ、生徒の自発的な提案があり、「校内早朝清掃」へと結びついた、などの波及効果も現れている。

住民も中学生も関心を寄せる社会的なイベント（国体）を人権教育の手段として活用する発想や清掃活動を単なる「清掃」にとどめず、課題や問題に気づき、仲間との協力や清掃活動の意義を考える機会とするなど、参加・体験的学習を考える上で示唆に富んでいる。